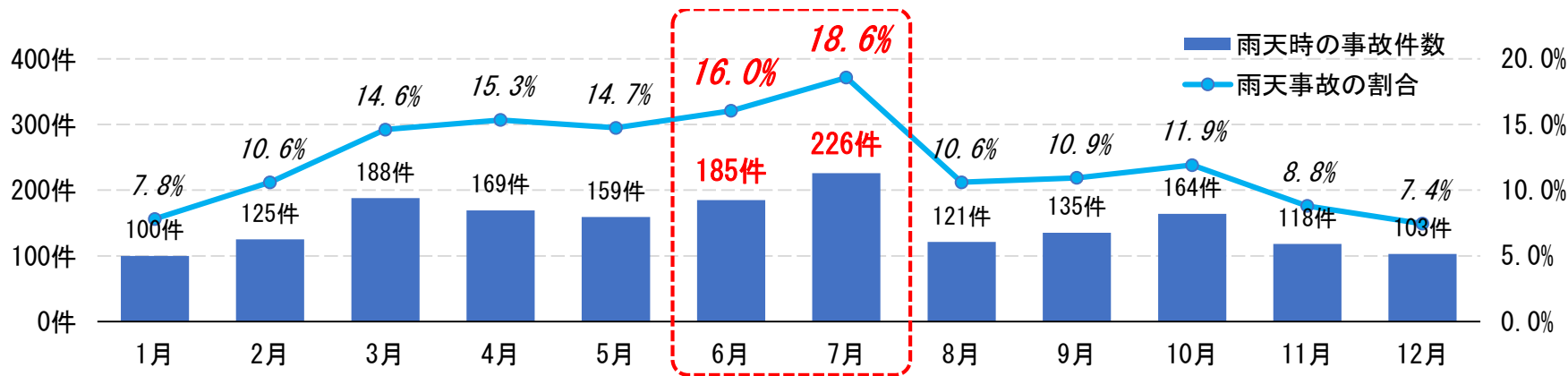


雨天時の交通事故（過去5年間：R2～R6）



6月・7月は梅雨の時季でもあり、雨天時の事故が他の月よりも多く発生し、全事故の約17%が雨天時の発生である。

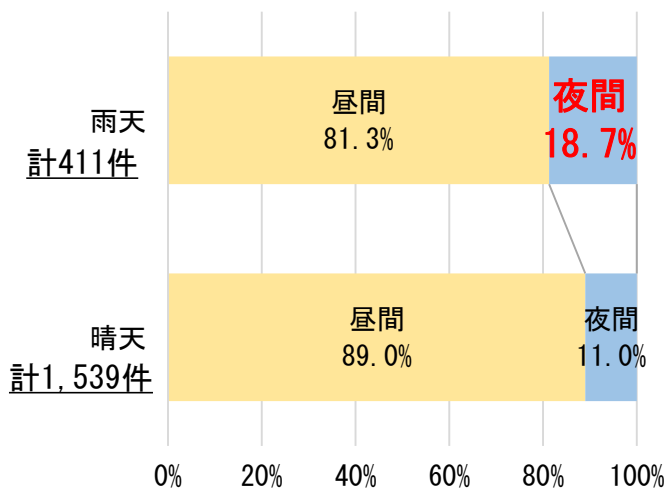
特に雨天時は、晴天時と比較して18時以降発生率が高いほか、8～10時も高い状況である。



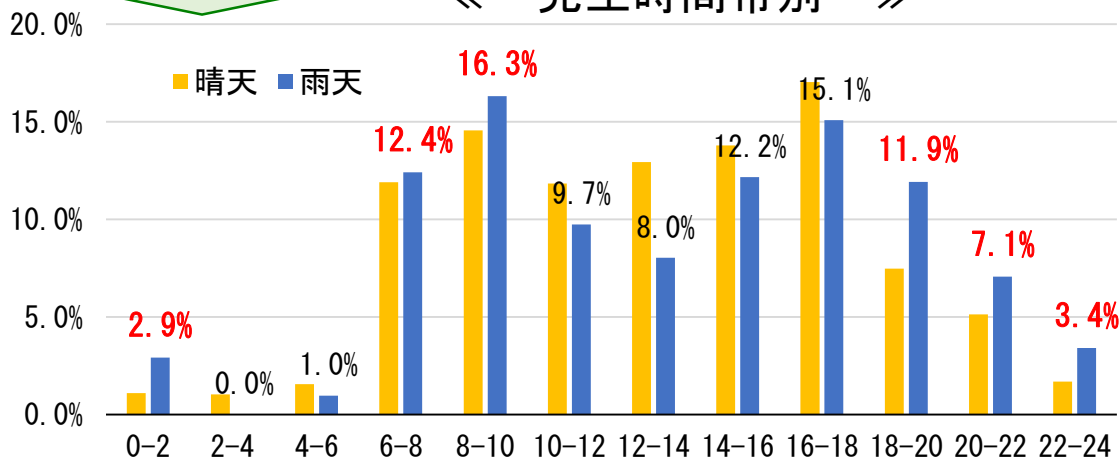
過去5年間の雨天事故事故1,793件

6・7月の事故

《 昼夜別 》



《 発生時間帯別 》

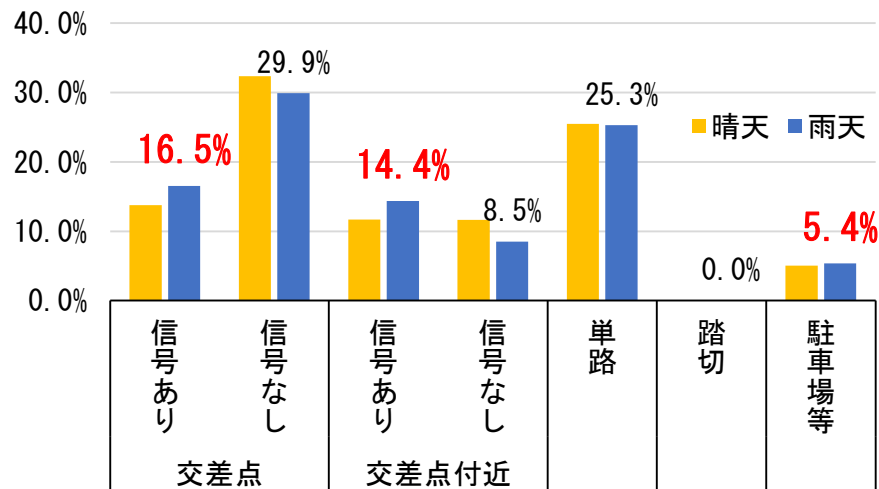


過去5年間の6・7月の雨天：411件 晴天：1,539件 （その他：420件）

梅雨時（6・7月）の交通事故（過去5年間：R2～R6）



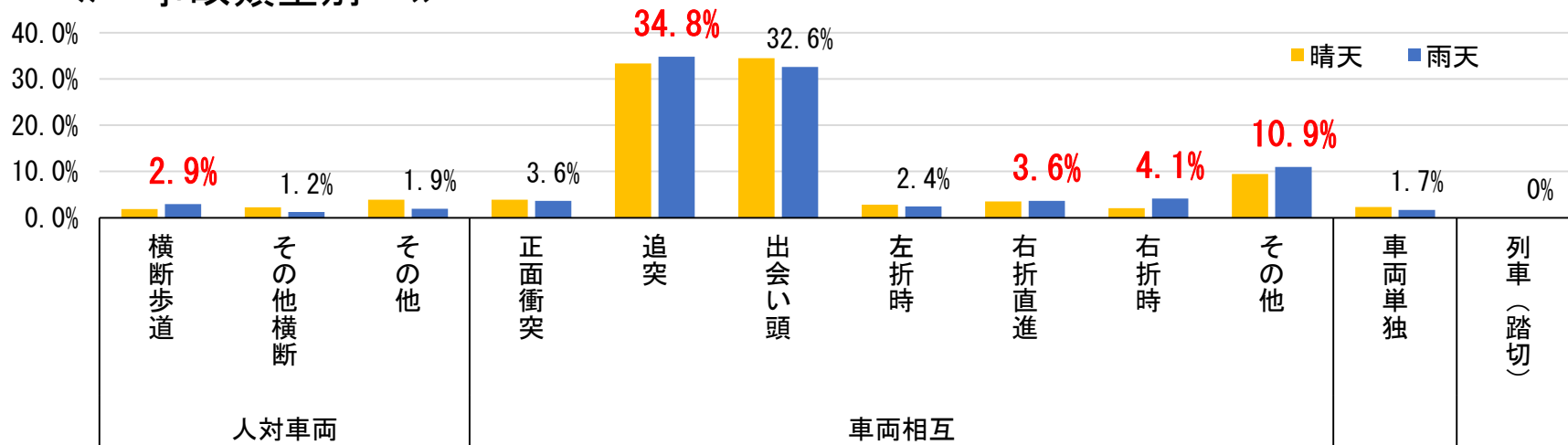
《 事故発生場所の道路形状別 》



6・7月の雨天時の事故特徴 (晴天時の発生率と比較)

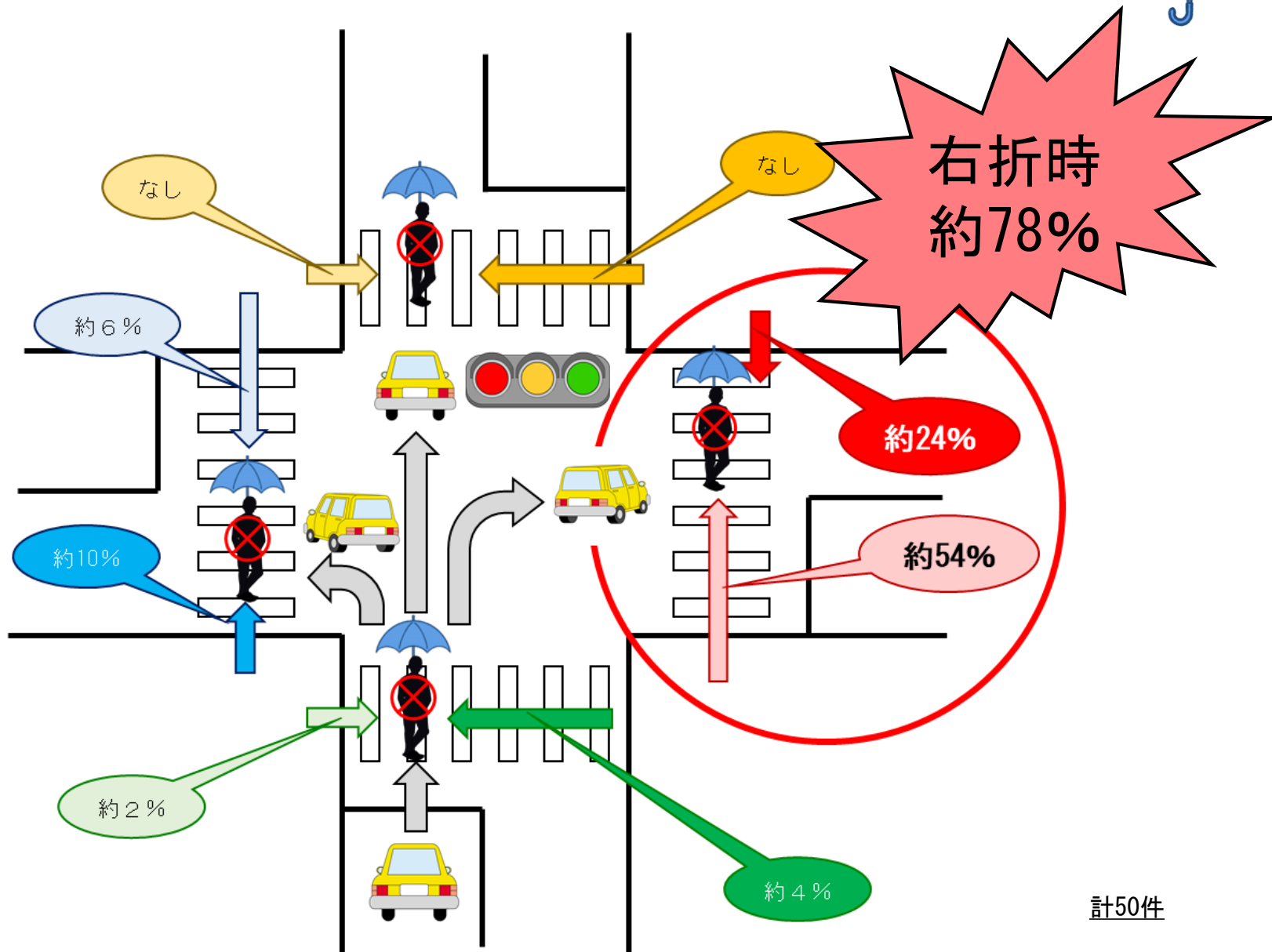
- 交差点での事故が多く、特に雨天時は、信号機交差点での事故の発生率が高い。
- 信号交差点付近での発生率が高く、追突事故が多い。
- 交差点を右折時に、横断歩道横断中の歩行者や自転車との衝突事故等の発生率が高い。

《 事故類型別 》



過去5年間の6・7月の雨天：411件 晴天：1,539件 (その他：420件)

雨天時の信号交差点における横断歩行者との事故 (過去5年間：R2～R6)



雨天時の危険

雨天時は、晴天時に比べ

- ・ブレーキが効きにくいほか、路面が滑りやすく、止まる距離が長くなる。
- ・フロントウィンドウだけでなく、リアウインドウ、左右のドアガラス、さらにドアミラーに雨粒が付着し、視界が悪いほか、ガラスが曇り、視界不良となる。などの危険があります。

ピッチ
ピッチ
速度おとして



梅雨に入る前の準備

《 タイヤの溝と空気圧の点検を！ 》

すり減ったタイヤや空気圧の少ないタイヤでの雨天時の走行は、ハイドロプレーニング現象※を起こしやすく危険です。

※ タイヤと路面との間に水膜ができ、ハンドルもブレーキも効かなくなる現象

《 ワイパーゴムの点検と早めの交換を！ 》

ワイパーゴムの劣化は、拭き取りが悪く、十分な視界を得ることができず危険です。

チャップ
チャップ
安全運転



雨天時の安全運転ポイント

雨天時の運転は、

- ★スピードは控えめに！
- ★車間距離を十分に確保！
- ★視界の確保！～ エアコンを有効活用・早めのライト点灯 ～

ランラン
ラン！！
楽しい旅を

